

谷峽

白雲

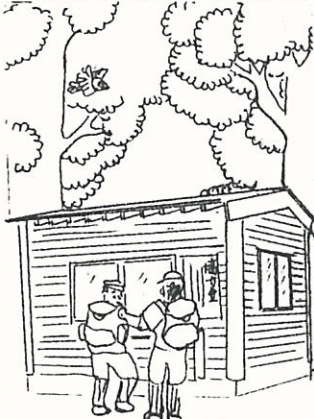
水協力金制度を導入

白谷雲水峽では、平成八年四月一日から「森林環境整備推進協力金制度」を導入し、協力金の徴収については屋久島宮林署長が大自然緑の会に委託して実施することになりました。

鹿児島県上屋久町に所在する白谷雲水峽は、宮之浦港から約十四キロの町道沿いに位置し、原生林の探勝やハイキングなど気軽に訪れることのできる最適のレクリエーション地区として昭和四十九年三月に自然休養林に指定され島内でも有数の観光スポットとして毎年多くの人々が訪れています。

これまで林野庁では、遊歩道、橋梁等の整備を行うとともに、屋久島自然休養林白谷地区保護管理協議会などと協力して、入り込み者に対する環境美化啓発活動や清掃等を行ってきたところですが、白谷雲水峽利用施設整備の充実とともに入り込み者の増加が予想されるところです。

そこで、ヤクスギランドと同様に、利用者の方々に森林



環境整備推進協力金（高校生以上一人三〇〇円）をお願いし、今後の白谷雲水峽の森林環境を適切に保全していくこととしています。

「大自然緑の会」を設立

白谷雲水峽の自然保護と環境美化等に寄与することを目的とする組織、「大自然緑の会」設立総会を二月十八日、離島開発総合センターで開催しました。

会の組織は、上屋久町外九の団体で構成し、会長に上屋

縄文杉展望デッキ完成

屋久島森林環境保全センターでは、世界自然遺産区域の一角である縄文杉を保護するため、重要自然維持地域保安整備事業で展望デッキと編柵工事の工事を昨年十月から行っていました。このほど完成し、三月五日から利用できるようになりました。展望デッキは全て



スギ材を使用、三三平方メートル、二九平方メートルの展望デッキを棧道でつないでおり、幅のある角度から縄文杉が観賞できるように配慮しています。

この展望デッキと編柵工の完成で、縄文杉の根の保護と周辺の植生の回復が期待されます。

久町長矢野勝巳さんを選出しました。

組織の名称については、上屋久町の小・中学生から公募し、応募作品二二〇点の中から、永田小六年生日高亮君の「大自然緑の会」に決定し、設立総会の席上で表彰されました。

保全センター

人の動き

- 四月一日付長官発令
総務部・安全衛生推進室長
小島 善雄（調整官）
自然遺産保全調整官
山下 孝親（林野庁）
四月一日付局長発令
森林技術総合研修所・出向
林 友和（専門官）
森林生態系保護担当専門官
下崎 哲也（庶務主任官）
庶務主任官
下村 治雄（内之浦森林官）

屋久島の植物



シャシャンボ（ツツジ科）

常緑低木。小高木、樹皮は暗赤褐色は平滑であるが、外皮は浅く縦裂する。小枝は灰褐色または灰色、若芽は緑色、葉は互生し枝に等間隔に着く、葉身は革質、狭た円形花は下垂し、がく歯は五個、花冠は筒状卵形で帯黄白色、先は五裂して外反する。六月七月に開花する、種子は多数あつて卵形である。材は重硬、密で床柱、くり物等に利用する。果実は食用となる。

おせわに

なりまーた

小島 善雄

屋久島での二年間は、公私共に楽しく過ごさせていただきました。特に昨年三月保全センター発足後は、大きな期待が寄せられる中で緊張しながらも、スタートから発想豊かに取り組むことが出来たと思います。保全センターの役割は、屋久島の森林環境を保全することにあるわけですが、すぐに成果のでもるものではなく、毎年地道に積み重ねることによって、その役割を果たすことができるものと思えます。転任するに当たり、保全センター発足からご支援をいただいた皆様には厚くお礼申し上げます。今後とも保全センターが地元を根ざした組織として、屋久島の自然環境と島民の方々に貢献できることを願います。

林 友和

この度の異動で、林野庁森林技術総合研修所へ出向となりました。

保全センターでは森林生態系保護専門官として、屋久島の山々を歩き回り貴重な自然にふれられることができ、私自身が担当した業務は、長期的な継続が必要な分野で成果や結論に達するのは数年先ですが、将来私が再び屋久島へ赴任する時の楽しみにしたいと思えます。

